

ふるさと自立計画推進モデル事業にかかる資源活用のイメージ

視点1 地域の個性と資源を生かした地域興し

既存産業の再生や地域資源等を活用した新たな産業の創出による地域振興を図る。

- ・ しごと体験、ワーキングホリデーから、定住、定職へとつなぐ仕組みづくり
- ・ 民宿の連携による安定的な団体客の受け入れ
- ・ 地域の名店とタイアップした食・泊分離型の宿泊スタイルづくり
- ・ 地域産品を使った一民宿一名物の地域食品づくり
- ・ 地域の伝承を全国へPRし、物語の舞台として来訪客の獲得
- ・ 物語を付加した特産品づくり、インターネットを活用した農産物の小ロット販売
- ・ カヌーによる海からの山陰海岸の地層深訪など自然体験メニューの拡大
- ・ 携帯電話、カーナビ、ミニFM局等を活用した観光情報提供の仕組みづくり

視点2 都市農村交流の推進

多彩な交流で地域の賑わいをつくるなど、多自然居住地域の元気につなげる。

- ・ 都市と農村の相互交流（農作業体験、宿泊体験、イベント参加）
- ・ 安全安心の農産物の提供（共同直売所の設置）
- ・ 棚田交流人などのボランティアをはじめとする農山漁村地域でのフィールドワーク

視点3 ライフスタイルの自然化

自然に溶け込むライフスタイルを創造し、多自然居住地域での暮らしを豊かにする。

- ・ 自然体験施設の空きスペースを中高年向けの農林業体験学校に活用
- ・ 古民家の再生と、定住者、半定住者を受け入れる仕組みづくり
- ・ 田畑、森林を維持管理する都市住民の組織化（所有と利用の分離も検討）
- ・ 遊休農地の活用や適切な維持管理による農村の景観保全
- ・ シカ・イノシシなどの有害鳥獣を使ったメニュー開発、ジビエ料理レストランの開設

視点4 持続可能な暮らしの維持

コミュニティの再生や安全・安心の基盤確保により持続可能な暮らし空間を構築する。

- ・ 空き店舗、空き教室などのスペースを活用した高齢者サロンの設置
- ・ ふるさとづくり人材の養成と担い手の組織化
- ・ 生協、量販店や日本郵便の配達網を活用した見守り体制の構築
- ・ 公民館等の一部を活用した日用品の置き店舗設置（富山の薬売り方式）
- ・ 生協、量販店等と連携した食料品、総菜、日用品の开店時間限定の小売店運営
- ・ 携帯電話を活用したオンデマンド方式の高齢者地域内移動の仕組みづくり

視点5 未利用・放置されている地域資源の再活用

空き家や遊休農地をはじめ様々な地域資源を創造的に活用した地域づくりを進める。

- ・ 廃校舎の再生利用
- ・ 木造校舎を景観形成建造物として指定
- ・ 自然体験施設を中高年向けの農林業体験学校に活用
- ・ 古民家の再生と農家民宿、レストラン、工房などへの活用
- ・ 太陽光、小水力、風力などの自然エネルギーの地域施設への活用